

会議名等	令和元年度 第3回海老名市子ども・子育て会議
日 時	令和元年7月30日（火） 10:00～11:30
場 所	えびなこどもセンター301 会議室
出席者	委 員：鍛冶 邦彦 委員長、梅崎 玲子 副委員長、篠原 俊正 委員、櫻井 篤 委員、小島 良之 委員、櫻井 慶一郎 委員、山田 由美子 委員、木村 伸之 委員、坪井 初音 委員、白倉 博子 委員、亀澤 ますみ 委員、亀谷 香 委員、畔上 由紀 委員、渡部 理子 委員（欠席：難波 光子 委員） 事務局：保健福祉部次長（子育て担当）小澤 孝夫、こども育成課長 本木 大一、こども政策係長 尾内 速斗、主任主事 林 健太、子育て相談課長 金指 芳子、子育て支援センター所長 山田 志保、保育・幼稚園課長 安齊 浩史、主任主事 片山 考人、学び支援課長 外村 智昭 傍聴者：0名
1 開会 2 議題 【審議事項】特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の定員設定について（資料1） ① 審議内容 （事務局）別紙資料1に基づき事務局から説明した。 ② 質疑応答 なし ③ 審議結果 審議事項について了承を得られた。 【審議事項】第2期子ども・子育て支援事業計画に係る量の見込みについて（資料2） ① 審議内容 （事務局）別紙資料2に基づき事務局から説明した。 ② 質疑応答 （委 員）2ページ目の「家庭類型」は8タイプに分けないといけないのか。単に「無業」とくるのではなく、働きたくても働けない方の状況も考えてあげることではないのか。 （事務局）国が示しているものであり、基本的には8タイプに振り分けて量の見込みを算出する。算出する際には、委員がおっしゃられたように今後の就労意向を含めた「潜在的」な家庭類型を基に算出している。 （委 員）時間外保育事業には幼稚園も含まれるのか。 （事務局）保育認定を受けた児童が対象となり、18時以降に保育を利用した園児を見込んでいる。 （委 員）学童の数は増やす一方ではなく、少子化であったり、様々な就労状況の保護者がいるわけで、その点も見据えた計画が必要となるのではないか。	

(事務局) 委員のおっしゃられる通りだと思う。また、今回のニーズ調査では5歳児が小学校にあがった場合のニーズもこの量の見込みには含まれている。今後学童保育を増やすのか減らすのかという部分については、量の見込みをベースに、所管課と慎重に検討していくことになる。

(委員) 事業ごとに量の見込みの単位が「実人数」や「延人数」と違うがなぜか。

(事務局) 単位そのものに意味はないが、ここに記載している単位で量の見込みをした方が、今後の市の施策を計画するうえで必要な数ということで事業ごとに単位を変えている。

(委員) 幼稚園の預かり時間が短く、特に夏休みなどは15時ぐらいまでの預かりとなっており、それ以降は一時預かりとして料金が発生するため保護者の負担が大きい。

(事務局) 預かる時間や日数・料金が幼稚園ごとに違うのが現状である。

(委員) 市内に幼稚園は8園あるが、やはりそれぞれの園の考え方があり、また受け入れる体制も簡単には整備できないため、現状を変えることは難しいと考える。

(委員) 幼稚園の一時預かりでは都合が悪い方は、保育園の一時預かりを利用されている。

(委員) 幼児教育の無償化が実施されると一時預かりも無償化されると思うが、無償化の影響を踏まえた量の見込みとなっているのか。

(事務局) ニーズ調査で無償化の設問を入れており、量の見込みを算出する際にはその影響を踏まえている。

(委員) 少子化の中、妊婦健康診査事業の量の見込みが5年間すべて同じ数値なのはなぜか。

(事務局) 西口の開発等の影響により海老名市は人口が増える見込みとなっている。若い世代の転入も見込まれる一方、新たに建設されるマンション等の価格設定によりどの程度の世代が住んでいくのかは不透明であるため、ここの量の見込みは実績値から算出している。

(委員) 家庭類型のタイプCとC'の違いはなにか。正規雇用と非正規雇用の違いがあったりするのか。

(事務局) ニーズ調査のなかで雇用形態を問う設問はなく、正規・非正規でタイプを分けるのではない。一つの基準として就労時間が120時間を超えるかどうかという考え方はある。

③ 審議結果

審議事項について了承を得られた。

3 閉会